

# 次回は、いよいよ第2篇 「貨幣の資本への転化」 に入りますよ！

## DAS KAPITAL

第15回の「資本論を読む会」は  
日時:2019年12月10日(火)午後6時~  
会場:支局・社青同事務所

11月5日(火)の「読む会」はこの1年間のおさらいを兼ねて、第1篇「商品と貨幣」(序文を含めて254ページ分)を通読する形としました。参加者は7名。レポートを担当したKaiさんがまとめてきた「これまでのレポート集」56ページを、ただひたすら読み合わせで2時間をかけました。

今回もお二人ほど、日程の調整が出来ずに参加できない旨のご案内が来ました。残念でした!!

次回は第2篇「貨幣の資本への転化」(第一分冊255ページから)に入りますが、これからの参加でも大丈夫ですよ! 「ウーンと易しくなりますから」(との声アリ)。レポーターはTakちゃん。

※終了後、忘年会を兼ねた飲み会もやります。

初めての方大歓迎。『資本論第一分冊』(国民文庫)は、社青同にも在庫があります。また、これまでの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」コーナーにあります。

“La peor lucha es la que  
no se hace”

Karl Marx



### レポーターから

◆岩波文庫版の『資本論』

- ・『資本論』は全三巻からなっています。
- ・岩波文庫の場合は、第一巻「資本の生産過程」が三冊、第二巻「資本の流通過程」が二冊、第三巻「資本主義的生産の総過程」は四冊に分かれていて、計九分冊。

◆「漱石と『資本論』」小島英俊・山崎耕一郎著(祥伝社)より

◎初版は 1000 部

- ・『資本論』第1巻は、1867年に最初にドイツ語版で世に出た。
- ・この時の印刷部数はたった 1000 部。
- ・しかも、それが売り切れるまで4年かかっているから、最初はいかに無視・冷遇されたかがわかる。
- ・1883年、マルクスの没後、その遺志を継いだ盟友エンゲルスによって、ドイツ語版の第2巻が、1885年、第3巻が1894年に出版された。
- ・ドイツ語版以外を見ると、1872年に第1巻のフランス語版が刊行され、1万部が売れた。
- ・同年には、第1巻のロシア語版が3000部で刊行、1年間で完売した。
- ・ロシア語版の第2巻、第3巻は、ドイツ語版以外で、先陣を切って刊行された。
- ・しかし、英語版の第1巻は、ドイツ語版に遅れること20年の1887年によりやく刊行された。
- ・高島素之(たかばたけもとゆき)が日本ではじめて『資本論』の全巻を翻訳、1920年から1924年に刊行された。
- ・日本における『資本論』普及の幕開けである。その第1巻は10万部以上売れたという。
- ・1852年に共産主義者同盟の解散。これ以降マルクスは10年以上、組織活動から遠ざかる。
- ・苦しい生活の中、マルクスは毎日のように大英博物図書館に通い、朝9時から夜7時まで読書と思索に没頭した。
- ・その成果の第一弾が、1859年の『経済学批判』であり、労働力の搾取によってのみ生まれる「剰余価値学説」を確立した。
- ・そして、8年後の1867年、それを発展させた『資本論』第1巻が完成するのである。
- ・マルクスは不摂生もあって病気がちだったが、肝臓肥大という深刻な診断を受ける。
- ・マルクスは1883年3月14日に64歳で亡くなった。
- ・マルクスの膨大な遺稿は、すべて盟友であるエンゲルスに預けられた。エンゲルスは遺稿を整理して、1885年6月に『資本論』第2巻、さらに1894年12月に第3巻を出版し、翌1895年に死去した。

(from Kai)